

The Coca-Cola Educational & Environmental Foundation

Activity Report 2016

事業活動報告書



ごあいさつ

次世代を担う青少年の育成を目指して

公益財団法人コカ・コーラ教育・環境財団は、「心豊かでたくましい人づくり (Healthy Active Life)」を理念とし、2007年6月に設立されました。

設立以来、次世代を担う青少年の育成と彼らを取りまく地域社会を支える人材の育成を目的として、「環境教育」「スポーツ教育」「奨学支援」の3つの事業を継続して実施しております。

環境教育・環境保全活動を表彰する「コカ・コーラ環境教育賞」は、23回目を迎え、全国から多数のご応募をいただき、広く皆さまに認知されております。

また、当財団の象徴的な存在である宿泊型体験施設「雨煙別小学校 コカ・コーラ環境ハウス」も、毎年全国の皆さまにご利用いただき、ご好評いただいております。

大学進学を支援する「奨学支援事業」においては、1966年の開始から50年間継続しており、これまでに2,232名の卒業生を社会に送り出しております。

2011年3月11日、東日本大震災津波発生により甚大な被害を受けた岩手県、宮城県、福島県の復興支援のために、当財団内に設立した「コカ・コーラ復興支援基金」は、これまでに公立小・中学校への太陽光発電設備の設置助成や高等学校と特別支援学校へのスクールバス寄贈などを行ってきました。震災から6年が経過し、現在は被災3県の高校生を対象とした教育の機会の提供など新たな支援の準備を進めております。

また、2016年4月14日以降に発生した一連の「熊本地震」によって被害を受けた熊本県と大分県の復興支援のために、被災した青少年の生活復興に必要とされる教育施設及び学習機会の提供などの支援活動を行ってまいります。

当財団は、これからも社会の変化と価値の変化に即した事業を企画・提供し、国際社会が求める青少年の育成を目指し、社会へ貢献してまいりたいと考えております。



公益財団法人
コカ・コーラ教育・環境財団
理事長

谷村邦久

財団事業活動概要

< 理念 > 心豊かでたくましい人づくり (Healthy Active Life)

環境教育

- ▶ コカ・コーラ環境教育賞
- ▶ コカ・コーラ環境ハウス

地域社会、さらには国際社会において次世代リーダーとなる人材育成の支援を行っています。

スポーツ教育

- ▶ コカ・コーラ ランニングアカデミー
- ▶ コカ・コーラ出前体育の授業

全国の青少年を対象に、スポーツを通じた次世代の育成と指導者育成を行っています。

奨学支援

- ▶ 青少年に対する教育支援

次世代を担う青少年の育成を目的に、高校生に大学生活への奨学支援を行っています。

復興支援

- ▶ コカ・コーラ復興支援基金

東日本大震災及び熊本地震の被災地支援を目的に、コカ・コーラ復興支援基金を設立。さまざまな事業を行います。

2016年度活動一覧

2016年度も当財団は 日本全国で活動を展開

2016年

- 4月1日：奨学支援事業 2016年度奨学生51名を採用
- 4月18日：「第23回コカ・コーラ環境教育賞」の募集開始
- 5月9日：「高野 進先生に学ぼう!コカ・コーラ出前体育の授業」を玉川中学校(神奈川県厚木市)にて開催
- 5月30日：北中学校(鳥取県鳥取市)にて「コカ・コーラ出前体育の授業」を開催
- 6月16日：「コカ・コーラファンデー」をコカ・コーラ環境ハウスにて北海道内の肢体不自由児者を対象に開催
- 6月30日：友部中学校(茨城県笠間市)にて「コカ・コーラ出前体育の授業」を開催
- 6月30日：「第23回コカ・コーラ環境教育賞」の第一次選考会にてノミネート15団体を決定
- 7月11日：奨学支援事業 各地の高等学校及び教育委員会に奨学生募集ポスター及び案内を送付
- 8月5～7日：「コカ・コーラ環境フォーラム」をコカ・コーラ環境ハウスにて開催。
「第23回コカ・コーラ環境教育賞」の最終選考会にて最優秀賞及び優秀賞団体を決定、表彰式を実施
- 8月25日：札幌開成中等教育学校(北海道札幌市)にて「コカ・コーラ出前体育の授業」を開催
- 9月1日：奨学支援事業 奨学生の応募開始
- 9月12日：小野中学校(福島県田村郡小野町)にて「コカ・コーラ出前体育の授業」を開催
- 9月13～15日：東京学芸大学環境教育研究センター「水辺の学びデザインプロジェクト」研修合宿をコカ・コーラ環境ハウスを拠点に2回実施
- 10月27日：伴中学校(広島県広島市)にて「コカ・コーラ出前体育の授業」を開催
- 11月17日：西原中学校(熊本県阿蘇郡西原村)にて「コカ・コーラ出前体育の授業」を開催
- 11月26・27日：知的障害者による「スペシャルオリンピックス日本」フロアホッケー日本代表の合宿をコカ・コーラ環境ハウスを拠点に、栗山町立北海道介護福祉学校の協力を得て実施
- 12月27日：小澤紀美子氏(東京学芸大学名誉教授・コカ・コーラ教育・環境財団理事)の講演会をコカ・コーラ環境ハウスにて開催
- 10月～12月：奨学支援事業 第1次(書面)選考、第2次(面接)選考を実施
奨学生予定者及び奨学生予備予定者を選定・決定

2017年

- 2月11～13日：「スペシャルオリンピックス日本」フロアホッケー日本代表の最終合宿及び激励会を実施
- 2月13～17日：東海大学「冬季環境保全演習」をコカ・コーラ環境ハウスを拠点に実施
- 2月25・26日：「コカ・コーラ ランニングアカデミー」を熊本県熊本市で開催

第23回コカ・コーラ環境教育賞

1994年に設立されたコカ・コーラ環境教育賞は、環境ボランティア活動の助成・支援を通じた環境教育・環境保全活動の促進を目的として、国内の環境教育分野の推進に貢献しています。23回目を迎えた2016年度は、87団体(活動表彰部門:52団体、次世代支援部門:35団体)の応募があり、その中から最優秀賞及び優秀賞を選出しました。

主催：公益財団法人コカ・コーラ教育・環境財団
 協力：読売新聞社
 後援：文部科学省、環境省



2つの部門で募集を実施

【活動表彰部門】

小・中学生とその指導者を対象として、地域社会に根ざした環境教育・環境保全活動の実績を顕彰します。

【次世代支援部門】

高校生、高専生及び大学生による環境保全・環境啓発に寄与する新しい企画を評価し、具現化のための支援を行います。

スケジュール

4月18日
募集開始

「活動表彰部門」「次世代支援部門」の募集を6月3日まで行いました。

6月30日

ノミネート15団体を決定
 応募の中から、書類選考を経て15団体(活動表彰部門10団体、次世代支援部門5団体)を選出しました。

8月6日・7日

最終選考会及び表彰式
 15団体がプレゼンテーションを実施。翌日に最優秀賞及び優秀賞団体を選出、表彰式を行いました。

最優秀賞受賞団体の紹介

活動表彰部門 舟橋村立舟橋小学校

活動地域：富山県中新川郡
 代表者：尾島 良幸氏

主な活動：絶滅危惧種を発見した用水の環境保全活動

日本一面積が小さい舟橋村を他地域に誇れる自然豊かな村にするため、自分たちが絶滅危惧種トミヨを発見した竹鼻用水の清掃活動や水草を増やす活動などを行い、カワセミが来るまでの成果をあげた。今後はホタルが生息できる環境を整える。



次世代支援部門 宮城県農業高等学校 科学部 復興プロジェクトチーム

活動地域：宮城県名取市
 代表者：丹野 恵太氏

主な活動：植物と食物連鎖を利用した環境修復型農業を目指す

津波によって生態系は偏り、土壌が著しく悪化した状況下で学校の桜の育成に成功。その経験を活かしてバラ栽培の研究を進め、試験地4ヶ所でバラ特有の食物連鎖が誕生したことを確認。さらに果実に含まれるビタミンCとポリフェノールの抽出に成功し商品化を目指している。



受賞後のコメント

● 舟橋村立舟橋小学校

メダカを探している中で絶滅危惧種であるトミヨを発見し、きれいな川にしか棲めないことを知って誇りに思いました。活動はいろいろ大変でしたが、家族や地域の方などの協力があって受賞できたのだと思います。舟橋村は日本一小さな村かもしれませんが、素敵な自然、素敵な人々がいて、とても素敵な故郷なんだと思いました。

● 宮城県農業高等学校 科学部 復興プロジェクトチーム

皆さんが素晴らしい発表を行う中、賞をいただくことができ名誉なことだと思いますし、被災地の現状を伝えることもできて良かったと思います。全国各地の小学生から大学院生まで、さらにスタッフの方と交流する中で気づくことも多く、自分たちの課題もわかりました。今後は他のグループと協力して活動していきたいです。

優秀賞受賞団体の紹介

活動表彰部門

西岡さかな組

活動地域：北海道札幌市 代表者：山口 貴司氏
 主な活動内容：水辺の生物全般を調査し地域に成果を還元
 多様な水環境を有する西岡公園で、魚類・両生類・湿生植物など水辺の生物全般を調査し、活動の成果を地域に還元。

今川こども自然クラブ

活動地域：静岡県湖西市 代表者：片山 愛司氏
 主な活動内容：ホテルの保護など自然保護活動を地道に展開
 植樹・棚田の保全・森遊び・水質調査・ホテルの保護活動などを実施。ホテル観察会が実施できるまでに環境を改善。

橋本市立あやの台小学校

活動地域：和歌山県橋本市 代表者：中谷 栄作氏
 主な活動内容：無農薬野菜やリサイクル品の作成・販売・募金
 毎年行っている環境・国際理解学習を活かし、商品作成・販売を行い、売上を募金する「エコマート」に取り組む。

京都市立朱雀第四小学校

活動地域：京都府京都市 代表者：高木 里美氏
 主な活動内容：学年ごとに段階に応じた環境教育を実施
 エコ改修後の校舎を活かし、エネルギー環境教育・自然の営みを中心とした環境教育・全校栽培活動などに幅広く取り組む。

うーたの会

活動地域：大分県大分市 代表者：神宮司 昭夫氏
 主な活動内容：地元の里山の保全活動と地域づくりを展開
 うーた(地名の太田の方言)の里山再生を目指し、市内にある「まちなかの里山ピオトーブ」の保全と地域づくりを展開。

次世代支援部門

東京工業大学 国際開発サークル バイオ炭プロジェクトチーム

活動地域：東京都目黒区 代表者：黒部 笙太氏
 主な活動内容：ケニア農村部でバイオ炭の生産・普及を実施
 ケニア農村部においてバイオ炭の生産・普及を目指すプロジェクトを展開。ネパール農村部でのプロジェクトも計画中。

石川県立津幡高等学校 園芸部

活動地域：石川県河北郡 代表者：大丸 孝斉氏
 主な活動内容：桑の木の植樹などを通して風景再生と地域活性化
 耕作放棄地や遊休地に桑の木を植樹。原風景の再生と環境保全につながる栽培キットの配布や、養蚕体験などを実施。

特定非営利活動法人 エコバル化女沼

活動地域：宮城県大崎市 代表者：佐藤 浩也氏
 主な活動内容：化女沼の環境保全活動を通して地域を活性化
 化女沼の環境調査・保全を行うとともに、毎月親子を対象に、山菜・野草狩りや外来魚撲滅作戦などの活動を実施。

瀬戸市立古瀬戸小学校

活動地域：愛知県瀬戸市 代表者：林 久美子氏
 主な活動内容：地域の川にメダカを取り戻す活動を実施
 校内の池の管理・飼育、川の生物・水質調査、浄化装置製作、清掃などを実施。その様子を報告書で全校・地域に配布。

学校法人清風学園 清風中学 生物部

活動地域：大阪府大阪市 代表者：池永 明史氏
 主な活動内容：里山保全を通して絶滅危惧種の保護を実施
 地元の里山の保全活動及び絶滅危惧種のニッポンバラタナゴの保護活動を実施。特に地表性昆虫の採取・調査に注力。

萩市立白水小学校

活動地域：山口県萩市 代表者：坪井 祥平氏
 主な活動内容：ホタルの飼育などを通じて水源を保護・保全
 地元・白水川の水質調査を実施。ホタルの飼育観察や成虫の放流、地域の清掃活動に取り組み水源の保護・保全を図る。

静岡県立富岳館高等学校 農業クラブ

活動地域：静岡県富士宮市 代表者：望月 基希氏
 主な活動内容：環境保全活動をベースに究極のエコ資材を開発
 地元で環境調査や環境保全活動を実施する一方、東北の被災地を緑化するために、究極のエコ資材「AOHチップ」を開発。

広島県立西条農業高等学校 畜産科

活動地域：広島県東広島市 代表者：斉藤 公泰氏
 主な活動内容：上質な豚肉生産で食料自給率の解決を目指す
 生産した豚を「西農ポーク」と名づけ食育活動に取り組み一方、地域の耕作放棄地の再生に飼育技術を活かす方法を検討。

参加者は活動紹介のプレゼンテーション終了後に環境教育のプログラムに参加しました。



ハサンバツ里山での自然体験



英語で環境学習



コカ・コーラの水への取り組みを学ぶ

雨煙別小学校 コカ・コーラ環境ハウス



北海道夕張郡栗山町の廃校を宿泊可能な施設として再生した「雨煙別小学校 コカ・コーラ環境ハウス」は、北海道夕張郡栗山町、地元のNPO法人雨煙別学校と公益財団法人コカ・コーラ教育・環境財団とが連携して運営し、教育の機会を提供して7年が経ちます。自然環境や農業環境を活かした体験型の環境教育プログラムを構築・展開し、全国の次世代を担う青少年の育成の場とすることを目指します。

地域社会を構築する取り組みは町の財産

栗山町長 椿原 紀昭氏



「雨煙別小学校 コカ・コーラ環境ハウス」は、公益財団法人コカ・コーラ教育・環境財団のご支援をいただき、廃校となった雨煙別小学校を自然・環境教育及び文化スポーツなどの宿泊型体験施設として再生いたしました。この施設を拠点に栗山町の豊かな自然環境の中で多様なプログラムを提供し、次世代を担う青少年の育成と、地域社会の成長を目指しています。企業・行政・NPO法人が連携し、協働の地域社会を構築する取り組みは、栗山町にとって大きな財産となっています。

たくましく挑戦する人材を育成するために

栗山町教育委員会教育長 南條 宏氏



栗山町の豊かな自然環境を活用した自然体験教育事業は、「栗山ならではの五感総動員原体験教育」として定着しており、町内の小・中学生が「雨煙別小学校 コカ・コーラ環境ハウス」を拠点とし、さまざまな体験を通して心豊かにたくましく成長するとともに、ふるさどに愛着と誇りを持つことにつながるものと考えています。次世代を担う栗山の子どもたちが「雨煙別小学校 コカ・コーラ環境ハウス」での活動を通じて、人生の諸課題にたくましく挑戦し、全国各地、世界中の方々と交流する機会を持ち、国際社会で活躍する人材に育つことを目指しています。

“大いに外遊びを” 小澤紀美子氏が講演

12月27日、コカ・コーラ環境教育賞の選考委員長も務めている小澤紀美子氏（東京学芸大学名誉教授/コカ・コーラ教育・環境財団理事）の講演会が行われました。「生き方を学ぶ環境教育とは」をテーマに、「自然体験は言葉を豊かにし、想像力を高めてくれる。また、スポーツでは鍛えられない身体能力の獲得につながる」と呼びかけ、参加した町民など約50人は熱心に耳を傾けていました。



次世代を担う青少年育成の場に学生らがボランティアとして参加

コカ・コーラ環境フォーラム 8月5～7日

大学生13名がボランティアスタッフとして表彰式の司会や進行のアシスト、資料運搬サポートまで幅広く行いました。また、環境教育賞ノミネート団体の生徒たちや関係者との交流を深めました。



スペシャルオリンピックス日本 11月26・27日

知的障害者のフロアホッケー代表選手の合宿では、栗山町立北海道介護福祉学校の15名の学生ボランティアが会場設営の準備や選手団の介護をサポートしました。



2016年度の主な活動

2016年6月「コカ・コーラファンデー@北海道」を開催。

8月 「第23回コカ・コーラ環境教育賞表彰式」「コカ・コーラ環境フォーラム」を同時開催。

9月 東京学芸大学環境教育研究センター「水辺の学びデザインプロジェクト」研修合宿を実施。

10月 旧雨煙別小学校校舎の建築80周年を記念した「感謝祭～昔と今、そして未来へ～」を開催。

11月 知的障害者による「スペシャルオリンピックス日本」フロアホッケー日本代表合宿を実施。

12月 小澤紀美子氏（東京学芸大学名誉教授/コカ・コーラ教育・環境財団理事）の講演会を開催。

2017年2月 「スペシャルオリンピックス日本」フロアホッケー日本代表の最終合宿及び激励会を実施。

2月 東海大学「冬季環境保全演習」を実施。

■感謝祭～昔と今、そして未来へ～

10月16日(日)

旧雨煙別小学校校舎の建築80周年を記念した感謝祭が開催されました。往年の小学校の写真展やコカ・コーラ環境ハウスの活動展のほか、木笛づくりやハンドチェリーなどの体験、クイズラリーの実施など盛りだくさんの内容。約300名の方が訪れ、学び舎を懐かしむとともに楽しい時間を過ごしました。



■コカ・コーラファンデー@北海道

6月16日(木)

全肢連（一般社団法人 全国肢体不自由児者父母の会連合会）を通じて、札幌、千歳などから約100名の会員とボランティアスタッフが参加。パーベキュースタイルの昼食で親睦を深め、栗山町内の間伐材を使った時計づくりを楽しみました。「とても楽しかった」「来年も参加したい」という声が多く聞かれました。



■「スペシャルオリンピックス日本」選手合宿

11月26日(土)27日(日)/2017年2月11日(土)～13日(月)

知的障害者の「スペシャルオリンピックス冬季世界大会」フロアホッケー日本代表選手の合宿が行われました。本番を見学した練習を栗山町立北海道介護福祉学校の体育館で実施。11月26日の夜には、リレハンメル五輪ノルディックスキー複合団体の金メダリスト、阿部雅司氏の講演が行われました。



■東京学芸大学・研修合宿

9月13日(火)～15日(木)/9月28日(水)～30日(金)

東京学芸大学の学生が、「水の学びデザインプロジェクト」研修合宿を2回実施。「Water Neutrality」をテーマに環境学習を行いました(助成:米国コカ・コーラ財団)。ポンウエンベツ川や支笏湖などの見学を通して水辺の自然や文化について考えるとともに、学生同士や先生、NPOスタッフとの交流を深め、その経験を今後の教材づくりに活かします。



■東海大学・冬季環境保全演習

2017年2月13日(月)～17日(金)

「北海道の暮らし・自然・文化と環境保全を考える」をテーマに、東海大学の学生による環境保全演習が行われました。北海道コカ・コーラボトリング札幌工場の見学、イグルー作りなどの体験プログラム等を通じて、「Water Neutrality」及び利雪による暮らしや文化などの取り組みについて学びました。



走ることを通じて子どもたちの心と体を育てる、 2つのプログラムを提供しています。

スポーツ教育事業では、子どもの基礎体力や運動能力の低下に対する取り組みとして、2008年から陸上400m走日本記録保持者・高野進先生の指導のもと、高野先生が理事長を務める日本ランニング振興機構(JRPO)による「コカ・コーラ ランニングアカデミー」と「コカ・コーラ出前体育の授業」を実施しています。



2016年度は中学校7校に出向き、1,075名の生徒と97名の先生方を対象に「ランニングの技能の習得」をテーマとした体育の授業を実施し、また同時にNPO法人で認定している「ランニング技能検定」も参加者全員に5級認定証(初級技能)を授与いたしました。中学生を対象とした授業では、プログラム内容も小学生対象の「かけっこ遊び」から「ランニングの基礎の習得」に変更し、自らが「走る」と向き合い、「考えて走る」というテーマをいたしました。実施後のアンケート結果を見てみると、多くの生徒が自らの走りを見つめ直し、楽しく走るコツを掴めたとの返答をいただき、私たちの目的も概ね達成できたのではないかと考えております。ティーンエイジの運動離れが叫ばれている昨今、ランニングプログラムを中心とした私たちの取り組みが運動離れを食い止め、運動嫌いをなくしていくことに少しでも寄与できれば幸いです。

高野 進 氏

1961年5月21生まれ 静岡県富士宮市出身 東海大学体育学部 教授 特定非営利活動法人 日本ランニング振興機構 理事長
東海大学陸上競技部 監督 日本スプリント学会会長 400m走日本記録保持者(44秒78)

高野 進先生に学ぼう！ コカ・コーラ ランニングアカデミー

スポーツの原点であり、運動能力に関係なく誰でも参加できる「ランニング」を通じて、子どもたちに運動することの楽しさや自分なりの能力を伸ばすきっかけを提供する「ランニングクリニック」と学校や地域における陸上指導者の育成を目的とした日本ランニング振興機構(JRPO)認定の「ジュニアランニング指導員講習会」を行っています。2016年度は熊本市の南部総合スポーツセンターで開催。中学生109名、指導員21名が参加しました。



南部総合スポーツセンター

日 時：2017年2月25日(土)・26日(日)
会 場：南部総合スポーツセンター(熊本県熊本市)
参加者：「ランニングクリニック」109名
「ジュニアランニング指導員講習会」21名

内 容：「ランニングクリニック」ウォーミングアップ/
グループ練習(ランニングドリル)/ラン検5級の動き/
まどめの走り「ジュニアランニング指導員講習会」ランニング
指導論/指導者向け体験授業/ランニング教室指導体験
共 催：公益財団法人コカ・コーラ教育・環境財団/NPO法人日本ラン
ニング振興機構(JRPO)
協 力：コカ・コーラウエスト株式会社



高野進氏を中心にJRPOが作成した スマホアプリ『RunRing』をリニューアル！

走ること、体を動かすことの楽しさを体感し、活動的で健康的なライフスタイルを推進することをコンセプトに、高野進氏を中心にJRPOが開発したスマートフォンアプリ「RunRing」をリニューアル。小学生向けと中学生以上向けに分け、発育・発達に応じたランニングプログラムを提供していることに加え、画面やプログラムの説明をシンプルにし、アプリの操作をしやすくしました。2016年4月11日より無料提供を開始しています。

RunRing



高野 進先生に学ぼう！ コカ・コーラ出前体育の授業

JRPO指導員が体育や課外授業の時間を使って行うプログラムで、正しい走り方の指導を通して、生涯にわたって運動を続けるための基礎を培うことを目指しています。2016年度は中学生を対象にした「出前体育の授業」が7校で開催されました。



【出前体育の授業】

2016年5月9日(月)

実 施 校：神奈川県厚木市立玉川中学校
参 加 者：中学2年生 144名
内 容：講義、実技実習(ウォーミングアップ・リズムミックスキップ・
走りの実践、まどめの走り)、質疑応答
協 力：神奈川県厚木市立玉川中学校/
コカ・コーライーストジャパン株式会社

2016年6月30日(木)

実 施 校：茨城県空間市立友部中学校
参 加 者：中学1年生 212名 教諭及び指導者 20名
内 容：講義、実技実習(ウォーミングアップ・リズムミックスキップ・
走りの実践、まどめの走り)、質疑応答、事後セッション
協 力：茨城県空間市立友部中学校/
コカ・コーライーストジャパン株式会社

2016年9月12日(月)

実 施 校：福島県田村郡小野町立小野中学校
参 加 者：中学2年生 94名 教諭及び指導者 12名
内 容：講義、実技実習(ウォーミングアップ・リズムミックスキップ・
走りの実践、まどめの走り)、質疑応答、事後セッション
協 力：福島県田村郡小野町立小野中学校/
コカ・コーライーストジャパン株式会社

2016年11月17日(木)

実 施 校：熊本県阿蘇郡西原村立西原中学校
参 加 者：中学1年生 87名 教諭及び指導者 5名
内 容：講義、実技実習(ウォーミングアップ・リズムミックスキップ・
走りの実践、まどめの走り)、質疑応答、事後セッション
協 力：熊本県阿蘇郡西原村立西原中学校/
コカ・コーラウエスト株式会社

2016年5月30日(月)

実 施 校：鳥取県鳥取市立北中学校
参 加 者：中学2年生 157名 教諭及び指導者 7名
内 容：講義、実技実習(ウォーミングアップ・リズムミックスキップ・
走りの実践、まどめの走り)、質疑応答、事後セッション
協 力：鳥取県鳥取市立北中学校/
コカ・コーラウエスト株式会社

2016年8月25日(木)

実 施 校：北海道市立札幌開成中等教育学校
参 加 者：中学2年生 160名 教諭及び指導者 33名
内 容：講義、実技実習(ウォーミングアップ・リズムミックスキップ・
走りの実践、まどめの走り)、質疑応答、事後セッション
協 力：北海道市立札幌開成中等教育学校/
北海道コカ・コーラボトリング株式会社

2016年10月27日(木)

実 施 校：広島県広島市立伴中学校
参 加 者：中学2年生 221名 教諭及び指導者 20名
内 容：講義、実技実習(ウォーミングアップ・リズムミックスキップ・
走りの実践、まどめの走り)、質疑応答、事後セッション
協 力：広島県広島市立伴中学校/
コカ・コーラウエスト株式会社

ジュニアランニング指導員講習会・参加者の声

- 走り方を少し教えるだけで、こんなに子どもが変化するのだと驚きました。これからは走り方を学んでいきたいです。
(30代男性、指導歴10年)
- 事前学習(eラーニング)で、指導の基礎、発育・発達と運動などを学んでからの講義だったのでわかりやすかったです。
(40代女性、指導歴7年)
- 実際に子どもたちに指導ができたことは良かった。日本を代表する方からも講義が受けられ、研修を受けている方とのつながりもできた。こういう機会をぜひ増やしてほしい。より多くの子どもの、ランニングに触れる場を作ってもらいたい。
(30代男性、指導歴なし)
- 走りの基礎、応急処置の正しいやり方、現場における指導案作りから実習まで、普段できない機会を与えてもらったことに感謝します。
(30代女性、指導歴なし)

「出前体育の授業」参加者の声

- 走るの苦手で嫌いでしたが、今回の授業で走る楽しさを感じることができました。
(中学2年女子)
- 音楽を使った授業でわかりやすく、体がリズムに乗って楽しかったです。日本記録保持者の人がわざわざ来てくれたのでとても驚きました。
(中学2年男子)
- 走り方のコツがよくわかりました。今日の教室に参加して良かったと心の底から思いました。とても楽しく活動できて良かったです。
(中学1年女子)
- コツや走り方の定義を詳しく教えてくださって楽しかったし、質問にもしっかりと考えて熱心に答えてくださいました。すごく嬉しかったです。こんな楽しい時間をくださって本当にありがとうございます。
(中学2年男子)

青少年に対する教育支援

コカ・コーラの奨学支援事業は、1966年に開始しました。コカ・コーラが日本で事業を開始して10年目にあたり、当時、日本国内では大学進学率が平均して25%にも満たない時代でした。1970年からは全国のポトラー各社と日本コカ・コーラが共同で、毎年全国各地から推薦された成績優秀な高校生に大学在学期間中、返済及び将来の就職等についても義務がない奨学金を授与しています。この事業は向上心あふれる学生に、教育の機会を提供するものとして50年間継続して実施しています。

2016年度は奨学生51名を採用し、本人及び入学する大学長、出身高等学校長へ決定を通知しました。

次年度の募集は、告知ポスター等にて、財団支部を通じて行います。広報活動として「鳳鳴」を制作し、財団役員、奨学生、卒業生、各支部へ配布しました。

今後も国際社会が求める青少年の育成、また地域社会を支える人材の育成に貢献することを目的として、人物・学力ともに優れ、かつ向上心に燃えながら経済的な理由により大学への進学が困難な事情にある高校生の進学を支援してまいります。



沖縄支部での奨学生証書授与式

奨学生の声

看護師を目指して。

親泊沙綾さん
応援してくれている方々がいることを忘れず、自分に厳しく、成長できる大学生活を送りたいと思っています。奨学生に選んでいただいたことを糧に、人に幸せを与えられるような看護師を目指します。

充実した4年間を。

知花杏樹さん
奨学生に選ばれたことは大きな喜びです。大学では親元を離れて一人暮らしですが、浪費をしないよう自分を戒め、日々の食事を疎かにせず、学業に励み、サークル活動などで仲間と交流を深めたいと思います。

国家試験を目標に。

伊波興駿さん
臨床検査技師になるために、大学では4年後の国家試験で合格することを目標にしっかり勉強に励みたいと考えています。また、さまざまなことに積極的に挑戦し、自らの意見や教養を深めていきたいです。

コカ・コーラ復興支援基金事業活動

国際社会で活躍する人材を育成

現状の被災地域の課題である「学習の機会が少ない」「経済的な事情で学ぶ機会がない」青少年(中学生以上)に対して、教育支援と機会の提供を行います。その一環として、12月3日(土)4日(日)、岩手県立不來方高等学校の1年生を対象に「英語コミュニケーションプログラム(パイロット版)」を実施しました。永続的に英語を学ぶ動機付けを作り出し、観光ガイドやボランティアとして活躍する青年を育成することで、交流人口の増加、地域創生など地域社会へ貢献するアンバサダーを輩出することを目的としています。



新たに熊本地震災害基金を設立

2016年4月14日以降に発生した「熊本地震」被災地域の復興支援活動のため、内閣府へ復興支援基金事業の計画及び補正予算の変更届を提出し、2016年10月24日に受理されました。支援活動地域は熊本県、大分県とし、全国コカ・コーラシステム会社7社とコカ・コーラシステム社員による寄付金をもとに、今後は被災地域の課題を踏まえた支援活動の企画を策定していきます。



財団概要

名称：公益財団法人コカ・コーラ教育・環境財団

英字名称：The Coca-Cola Educational & Environmental Foundation

設立：2007年6月25日

公益財団法人移行日：2011年9月27日

所轄行政庁：内閣府

設立代表：縄英明

所在地：東京都港区六本木6-2-31

役員一覧

理事長	谷村 邦久
理事	後藤 由美
理事	青木 庸三
理事	上野 密
理事	小澤 紀美子
理事	小松崎 和夫
理事	菅野 耕自
理事	高梨 圭二
理事	馬場 久萬男
理事	レイモンド・シエルトン
理事	吉松 民雄
監事	高橋 俊夫
監事	寺尾 仁之
評議員	池田 延行
評議員	稲垣 晴彦
評議員	稲本 洋之助
評議員	佐々木 康行
評議員	並木 茂夫
評議員	原 幹弘
評議員	柘 巖
評議員	岡本 繁樹
評議員	堀部 定男
評議員	宮林 茂幸
評議員	望月 千世子
評議員	安井 至
評議員	米村 洋一

(2017年3月31日現在)

公益財団法人コカ・コーラ教育・環境財団
〒106-0032 東京都港区六本木 6-2-31
<http://www.cocacola-zaidan.jp/>

この事業活動報告書では、公益財団法人コカ・コーラ教育・環境財団が行った、2016年4月～2017年3月までの活動内容を記載しています。

